第２章　新市の概要

１　歴　史

岡山市は，古代より吉備文化の発祥地として栄え，市西部には今も多くの史跡を残し，市の中心部においては，戦国時代末期に宇喜多氏が岡山城を築城したことに始まり，その城下町の整備に努めて，岡山発展の礎を築きました。

江戸時代には池田氏が藩主となり，学問の奨励や藩政の改革，後楽園の築庭，また，岡山平野南部の大規模な干拓事業などが行われ，以降，政治・経済はもとより，交通・教育文化・医療などさまざまな都市機能を備えた中心都市として発展してきました。

御津町は，室町時代の荘園統治の後，備前の国最大の豪族松田氏が中心地金川へ山城を築城し，その城下町として発展し，江戸時代には岡山藩家老の陣屋町として，また，東西南北を結ぶ水陸交通の要衝として繁栄してきました。明治時代以降は，岡山市の後背地域として農業が発達していましたが，近年，県・町が造成した工業団地への相次ぐ工場の立地により，工業の町として大きく飛躍しています。

灘崎町には，山裾部周辺から貝塚が発掘されるなど，かつては児島湾の海岸線に集落が点在していましたが，江戸時代に行われた岡山平野の干拓事業により大小河川からの流出土が沖積し，しだいに遠浅の海は干潟化していきました。明治・昭和時代には，その干潟が国策により干拓地として埋め立てられ，町域面積の約３分の２が肥沃な穀倉地帯となりました。産業は，農業を中心に発達してきましたが，現在では，都市近郊型のベッドタウンとしても発展しています。

合併の沿革

岡山市	明治22年6月1日	市制施行
	明治32年8月1日	御津郡御野村，伊島村，石井村，鹿田村，古鹿田村福浜村の各一部及び上道郡三櫂村を編入
	大正10年3月1日	御津郡伊島村，石井村，鹿田村及び御野村の大部を編入
	昭和6年4月1日	上道郡宇野村，平井村，御津郡福浜村を編入
	昭和27年4月1日	御津郡牧石村，大野村，白石村，今村，芳田村，児島郡甲浦村，上道郡三蟠村，沖田村，操陽村，富山村を編入
	昭和28年3月1日	御津郡牧山村，赤磐郡高月村の各一部を編入

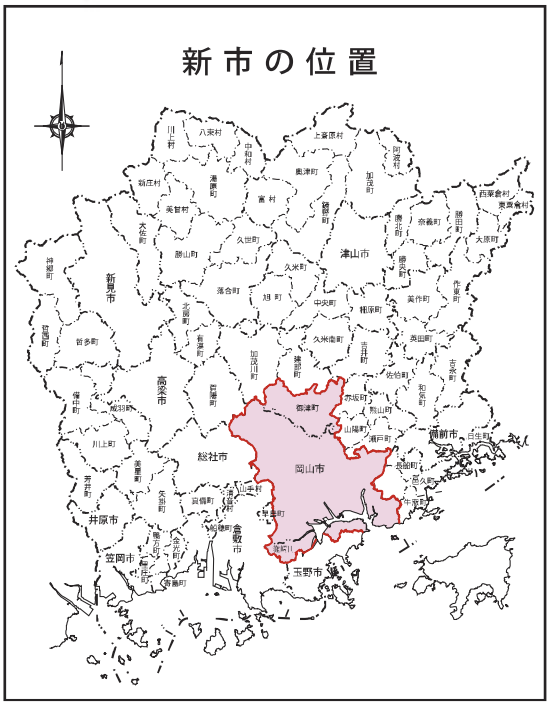
岡山市	昭和29年4月1日	上道郡高島村，幡多村，財田村，児島郡小串村及び御津郡御津町の一部を編入
	昭和44年2月18日	西大寺市を編入
	昭和46年1月8日	御津郡一宮町，津高町，吉備郡高松町を編入
	昭和46年3月8日	都窪郡吉備町，妹尾町，福田村を編入
	昭和46年5月1日	上道郡上道町，児島郡興除村，吉備郡足守町を編入
	昭和50年5月1日	児島郡藤田村を編入
御津町	昭和28年4月1日	御津郡牧山村，宇垣村，金川町，宇甘東村，宇甘西村，赤磐郡五城村，葛城村が合併し御津町
	昭和31年9月30日	赤磐郡布都美村の一部を編入
灘崎町	明治39年4月1日	灘村と彦崎村の一部が合併し灘崎村
	昭和24年4月1日	町制施行
	昭和34年3月1日	郷内村の一部を編入

2　自然条件

(1)　恵まれた地理的条件

新市となる地域は，近畿圏と九州圏を結ぶ東西軸と日本海と太平洋を連携する南北軸のクロスポイントに位置し，中四国地方の中心地となり得る地理的条件を備えています。

また，地形的には，吉備高原に連なる北部の丘陵地，その山間部から南北に貫流する岡山県三大河川の旭川・吉井川，それら河川の河口に広がる岡山平野，児島半島に囲まれた児島湖，また，瀬戸内海に続く沿岸地帯からなり，水と緑に囲まれた自然の美しさを有しています。



(2)　気　候

新市は，瀬戸内式気候区に属し，平均気温が南部で16℃前後，北部で14℃前後と年間を通して比較的温暖で，晴れの国おかやまの言葉が示すとおり日照時間は2,000時間を超え，降水量は1,100㎜～1,300㎜前後となっています。

また，降雪はほとんどなく，台風等の自然災害も少ない地域です。

(3)　面　積

新市の面積は，658.57K㎡，東西約35km，南北約37kmで，岡山県の面積の9.4％を占めています。

地域別面積等　　（単位：K㎡，％）

区　　分	岡 山 市	御 津 町	灘 崎 町	合　　計	岡 山 県
面　　積	513.29	114.42	30.86	**658.57**	7,009.06
県面積比率	7.3	1.6	0.4	**9.4**	100.0

（注）1　平成15年10月１日現在の国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」による。

2　児島湖（7.13K㎡）の水面が境界未定のため，岡山市，灘崎町には含まず，県計へのみ含む。

3　玉野市及び香川県香川郡直島町は境界の一部が未定のため，玉野市の面積は県計に含まれていない。

３　社会条件

(1) 交通網が集中する広域交流拠点

新市は，岡山県の県庁所在地として政治・経済・文化の中心地であり，道路・鉄道・空路などの交通網が集中する広域交流拠点となっています。

高速道路は，東西方向に山陽自動車道，南北方向に岡山自動車道が整備され，全国的な幹線道路網の一部を形成し，一般国道では，国道2号，国道180号，国道250号が東西方向に，国道30号，国道53号，国道429号が南北方向に整備されており，県道とともに新市の骨格的な道路網を形成しています。

鉄道は，ＪＲ山陽新幹線が東西に敷設され，在来線では，山陽本線をはじめ，伯備線，瀬戸大橋線，宇野線，津山線，赤穂線，吉備線がＪＲ岡山駅から各地域に連絡しており，中四国の結節点としての拠点を担っています。

また，3,000ｍ滑走路を擁し，輸入促進地域（ＦＡＺ）の指定を受け，国際物流拠点として発展をめざす岡山空港や，重要港湾としての岡山港があります。

しかしながら，自動車交通量の増大に伴い，市街地で発生する交通渋滞や地域を連絡する幹線道路ネットワークの不足は，社会的コストの増大を招いており，道路をはじめとする交通基盤整備が今後の課題となっています。

交通体系図
御津町
金川駅
JR津山線
国道429号
岡山空港
山陽I.C
国道53号
山陽自動車道
総社市
岡山総社I.C
岡山I.C
吉備S.A
JR吉備線
JR山陽新幹線
国道250号
岡山駅
JR赤穂線
国道180号
岡山市
国道2号
JR山陽本線
倉敷J.C.T
外環状線
早島I.C
JR瀬戸大橋線
岡山港
国道30号
瀬戸中央自動車道
灘崎町
備前片岡駅
JR宇野線
水島I.C
倉敷市
玉野市
直島諸島
1：200,000
0
5
10km

(2) 土地利用の状況

新市の総面積は658.57km²で，森林面積が265.27km²と一番多く，全体の40.3%を占めています。森林を除く面積は，393.30km²（59.7%）で，比較的広大な平地に恵まれた区域であるといえ，その平地を活かすことにより，人口集積などさらなる都市空間の広がりの可能性を秘めています。

また，農用地面積は，154.13km²で区域の23.4%を占め，農用地にも恵まれています。

地域別に特徴を見ると，御津町では森林の割合が75.7%，灘崎町では農用地の割合が41.6%と突出して多く，岡山市では，森林，農用地の占める割合は多いものの，道路，宅地の占める割合も２町に比べて比較的多くなっています。

土地利用の状況（面積）　（単位：km²・%）

区 分	農用地	森 林	水面等	道 路	宅 地	その他	合 計
岡 山 市	133.10	169.97	34.07	35.43	65.63	75.09	513.29
構成比	25.9	33.1	6.7	6.9	12.8	14.6	100.0
御 津 町	8.18	86.62	7.48	3.00	2.68	6.46	114.42
構成比	7.2	75.7	6.5	2.6	2.3	5.7	100.0
灘 崎 町	12.85	8.68	4.27	1.09	2.05	1.92	30.86
構成比	41.6	28.1	13.9	3.6	6.6	6.2	100.0
合 計	154.13	265.27	45.82	39.52	70.36	83.47	658.57
構成比	23.4	40.3	6.9	6.0	10.7	12.7	100.0

（注）１　岡山市（平成４年），御津町（平成14年），灘崎町（平成６年）の「国土利用計画」による。

２　各市町の合計面積は，平成15年10月１日現在の国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」による。

4　人　口

(1)　増加傾向にある総人口

平成12年国勢調査による新市の総人口は652,679人となっており，岡山県の総人口の33.5%を占めています。平成２年から平成12年の10年間の新市域の総人口は，御津町は減少しているものの岡山市，灘崎町が増加しているため，全体では増加傾向にあり，さらに県に占める割合も増加してきています。

年齢別に見ると，10年間で年少人口は115,041人(18.6%)から100,133人(15.3%)に減少し，逆に，老年人口は74,380人(12.0%)から109,223人(16.7%)に増加しており，少子・高齢化が進行していることがうかがえます。

また，世帯数については，10年間で214,570世帯から251,964世帯へと次第に増加していますが，一世帯当たりの人員は2.88人から2.59人へと減少しています。

総人口・年齢階層別人口・世帯数　（単位：人）

区分		平成２年	平成７年	平成12年
岡山県総人口		1,925,877	1,950,750	1,950,828
各市町	岡山市	593,730	615,757	626,642
	御津町	10,648	10,582	10,214
	灘崎町	14,200	15,315	15,823
新市計		**618,578**	**641,654**	**652,679**
	県に占める割合	32.1%	32.9%	33.5%
年齢別	年少人口（0～14歳）	115,041	105,675	100,133
	構成比	18.6%	16.5%	15.3%
	生産年齢人口（15～64歳）	428,529	444,883	443,181
	構成比	69.3%	69.3%	67.9%
	老年人口（65歳以上）	74,380	90,537	109,223
	構成比	12.0%	14.1%	16.7%
	年齢不詳人口	628	559	142
	構成比	0.1%	0.1%	0.1%
	合計	618,578	641,654	652,679
	構成比	100.0%	100.0%	100.0%
世帯数		214,573	239,134	251,964
一世帯人員		2.88	2.68	2.59

（注）各年国勢調査による。

(2)　増加する第３次産業就労者数と好転している雇用状況

新市の就業人口は，平成12年現在313,320人で，岡山県内の就業者人口の33.0％を占めており，15歳以上の人口（552,404人，平成12年国勢調査）に占める割合の56.7％となっています。

産業別就業者の動向では，第３次産業への就業が年々増加しており，平成12年現在で223,120人と全体の71.2％を占めています。その反面，第２次産業への就業者は，平成２年からの５年間に83,531人から85,779人へと若干増加しているものの，平成７年からの５年間では79,054人へと減少し，さらに，第１次産業就業者は，平成２年の15,307人から平成12年は11,146人と全就業者数の3.6％までに減少しています。

生産額等について産業別に人口千人当りでみると，農業については，生産性の高い農業経営を行っている灘崎町の農業産出額が高くなっており，工業については，工業団地の整備と企業立地の促進により，御津町の製造品出荷額等が高くなっています。また，岡山市では，これまでの商業施設の集積などにより，商品販売額が高くなっています。

新市の雇用状況では，新市域内の大半を占める岡山公共職業安定所管内の有効求人倍率を見ると，平成14年３月には1.06倍であったものが，平成16年３月には1.53倍に改善しています。

また，平成16年３月では，管内の有効求人倍率は全国（0.77倍）はもとより岡山県（1.09倍）と比較しても，大幅に上回っています。

産　業　別　就　業　人　口

（単位：人）

区　　分			平成２年	平成７年	平成12年
岡山県就業者人口			952,585	987,172	948,658
各市町	岡　山　市		285,599	304,961	300,091
	御　津　町		5,351	5,595	5,048
	灘　崎　町		7,381	8,141	8,181
新市の就業者総数			**298,331**	**318,697**	**313,320**
	県に占める割合		31.3%	32.3%	33.0%
産業別	第１次産業		15,307	13,854	11,146
		構成比	5.1%	4.4%	3.6%
	第２次産業		83,531	85,779	79,054
		構成比	28.0%	26.9%	25.2%
	第３次産業		199,493	219,064	223,120
		構成比	66.9%	68.7%	71.2%
	合　　計		298,331	318,697	313,320
		構成比	100.0%	100.0%	100.0%

（注）１　各年国勢調査による。

２　分類不能人口は含まない。

市町別生産額等

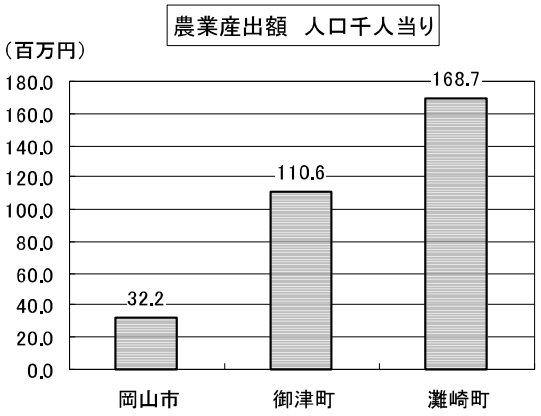
（単位：人，百万円）

区　分	人　口	農業産出額	製造品出荷額等	商品販売額
岡山市	626,642	20,200	648,133	3,120,165
御津町	10,214	1,130	78,523	7,422
灘崎町	15,823	2,670	3,838	14,153
合　計	652,679	24,000	730,494	3,141,740

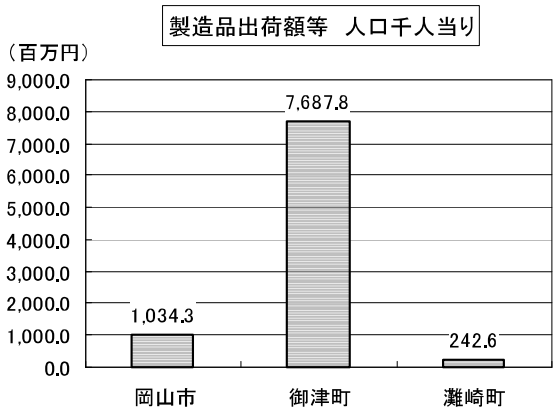
（注）人口は平成12年国勢調査，農業産出額は岡山農林水産統計年報（平成14年～15年版）の平成14年の数値，製造品出荷額等は平成14年工業統計調査，商品販売額は平成14年商業統計調査による。

地域産業の特性

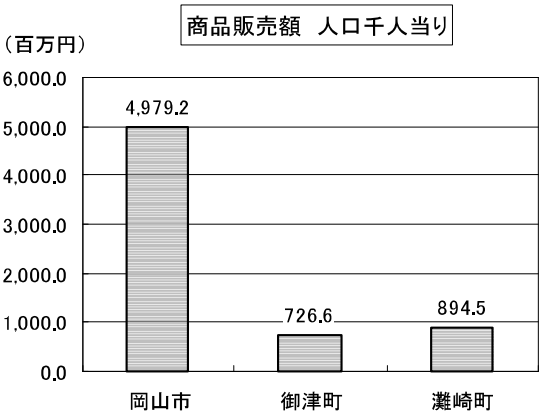
○市町別農業の状況



○市町別工業の状況（製造業）



○市町別商業の状況（卸売業，小売業）



（注）人口は平成12年国勢調査，農業産出額は岡山農林水産統計年報（平成14年～15年版）の平成14年の数値，製造品出荷額等は平成14年工業統計調査，商品販売額は平成14年商業統計調査による。

有効求人倍率の推移

区　分	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
全　　国	0.54	0.63	0.52	0.60	0.77
岡　山　県	0.72	0.78	0.73	0.88	1.09
岡 山 管 内	0.91	1.02	1.06	1.22	1.53
西大寺管内	0.63	0.65	0.51	0.63	0.84
玉 野 管 内	0.67	0.69	0.65	0.75	1.09

（注）１　岡山管内とは，岡山公共職業安定所管内(岡山市（西大寺，上道除く），御津町，建部町)
西大寺管内とは，西大寺公共職業安定所管内(西大寺，上道，長船町，邑久町，牛窓町)
玉野管内とは，玉野公共職業安定所管内（玉野市，灘崎町）である。
２　数値は，各年３月の数値である。

(3)　市域内の通勤者・通学者の状況

①　通勤の状況

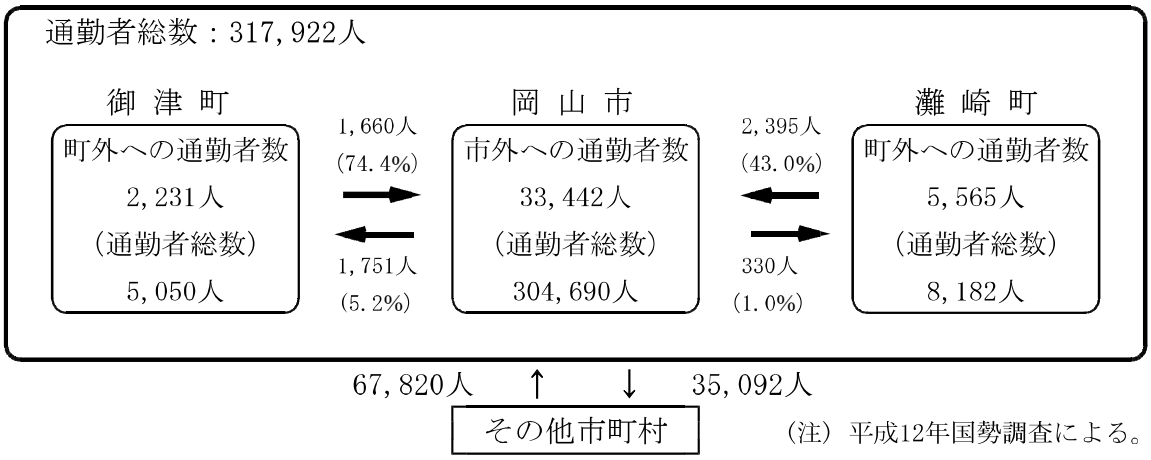
新市域内の通勤の状況を見ると，御津町では，町外への通勤者2,231人の内1,660人（74.4%）が岡山市へ通っていますが，岡山市から御津町への通勤者は1,751人であり，御津町から岡山市への通勤者を上回っています。

特に，御津町においては，平成５年度までに県営・町営の工業団地が整備されたことで，近年，他地域からの通勤者が飛躍的に増加しています。

灘崎町では，町外への通勤者5,565人のうち2,395人（43.0%）が岡山市へ通っており，密接な関係を示しています。

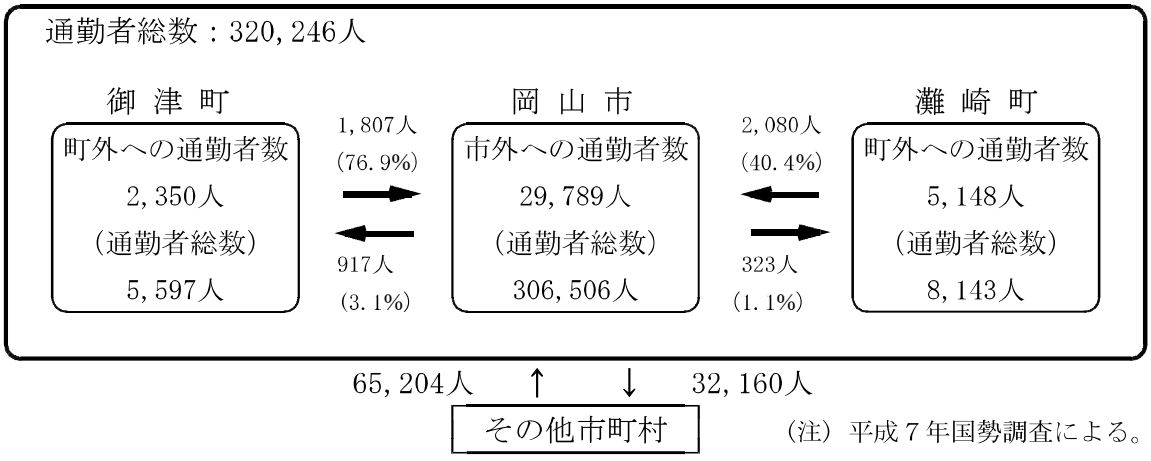
また，他地域から新市域内への通勤者数は，平成２年の57,363人から平成12年には約１万人増加し67,820人となっており，経済活動の中心都市としての役割が一層増大していると考えられます。

新市域の通勤状況（平成12年）



（注）平成12年国勢調査による。

新市域の通勤状況（平成７年）



（注）平成７年国勢調査による。

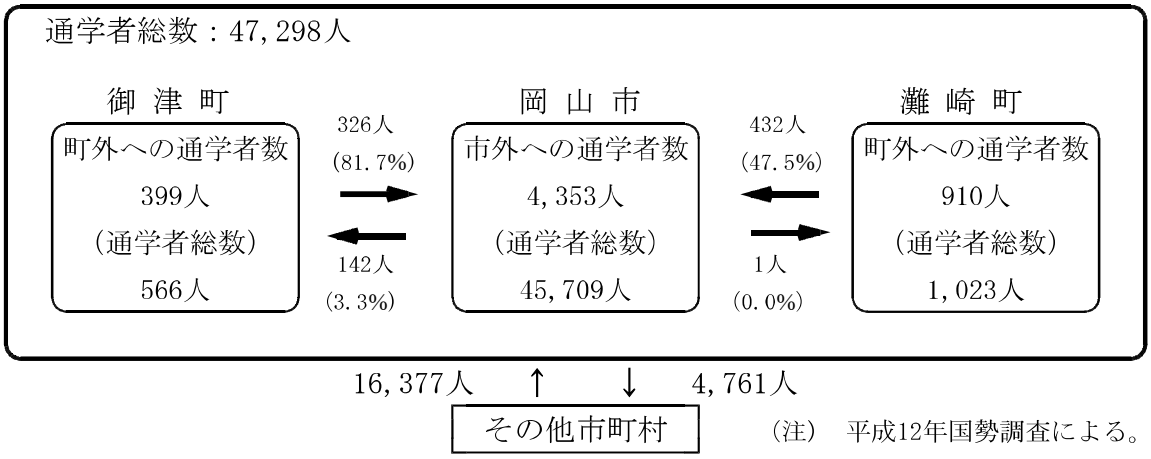
② 通学の状況

新市域内の通学の状況を見ると，岡山市に高校・大学等が集積していることから，御津町では，町外への通学者399人のうち326人（81.7%）が岡山市に通学しており，岡山市から御津町への移動は142人となっています。

また，灘崎町でも同様に，町外への通学者910人のうち432人（47.5%）が岡山市へ通っています。

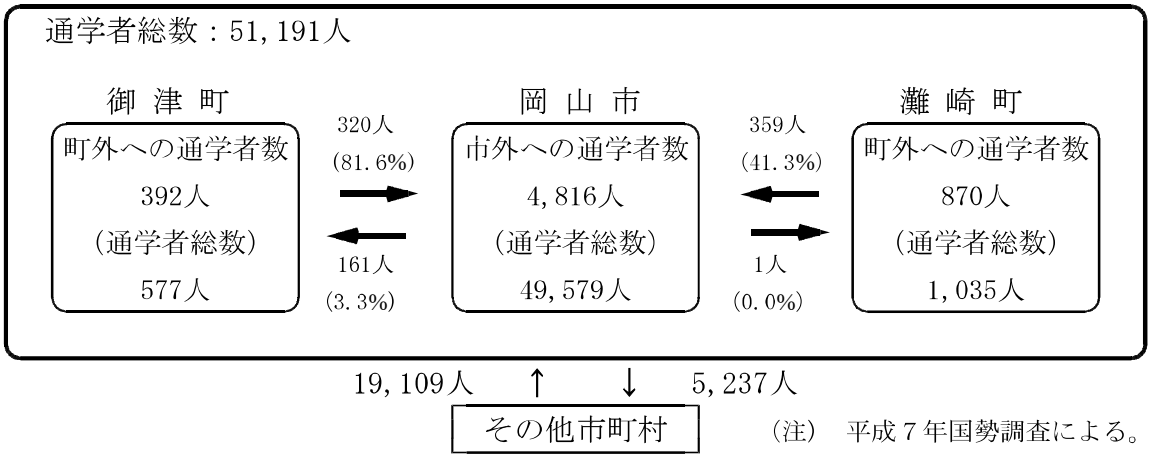
他地域との通学状況の推移を見ると，新市域内の通学者総数は減少傾向にありますが，他地域からの通学者は，新市域外への通学者数の約3.4倍にあたる16,377人となっています。

新市域の通学状況（平成12年）



（注） 平成12年国勢調査による。

新市域の通学状況（平成７年）



（注） 平成７年国勢調査による。